

1. 医学部医学科教育

平成14年度に、新しいカリキュラムに基づく全学教育並びに専門教育授業が導入され、本年度で3年目を迎えた。新たな1年生に対しては、大学教育機能開発センターを中心とした授業評価とその反省のもとに、改善された授業メニューが提供された。一方、3年次に進級した学生には新カリキュラムに基づく授業が予定通り開始された。今後更に、学年進行で特に専門教育を中心として新カリキュラムが正式に導入されていく予定であるが、医学教育改革に対する社会的要求は滞まるところを知らず、緊急性も高い。我々も臨機応変に寄せる波に対応すべく適宜、いわば“新々カリキュラム”の策定と実施可能な学年から「まったなし」での改善カリキュラムの実行に取り組んできた。

(平成16年度 医学部長：兼松隆之、教務委員長：小路武彦、学生委員長：高橋晴雄、
入試委員長：関根一郎)

A. 全学教育

一昨年度、全学教育が始まって以来の大幅改訂に基づく新カリキュラムが施行された。従来全学教育科目として行われていた教養から専門への橋渡しとなる科目（B科目群）は、実質廃止・改編され専門科目として行われることになった。必修単位数も47単位から30単位へ大幅に削減され、履修単位数の上限も設けられた。また、新生を対象に始まった少人数教育「教養セミナー」は、その有効性の評価法と小グループを構成する教員及び学生の専門性の違いに関する問題点を含みながらも、平成16年度も実施された。医学部は、全学教育に於いて選択科目群の中核の一つである「人間科学分野」の責任部局として運営を担っている。本年度医学科からは、講義科目ではのべ90名の教員が12科目の授業を担当した。また、20名の医学科教員が教養セミナーを担当した（表1）。

B. 専門教育

一昨年より1年次では、全学教育授業日が週3日間に減り専門教育授業日が週2日間に増加すると共に、新カリキュラムが導入されている。従来全学教育で行われていた専門準備科目がなくなり、以前から行なわれている「人間生物学」に加えて「細胞生物学」「医学統計学」「生物化学」「生物・化学実習」が新たに専門科目に付け加えられた。特に、長崎大学医学部医学科の特色ある教育として「原爆医学概論」が平成14年度から、また「医学は長崎から」が平成15年度から新規科目として開始された。1年次「医と社会」では、医学科・保健学科の共修の授業も企画された。また、学生による授業評価と表裏一体をなすものとして学生の成績評価の厳格化が求められ、2年次から3年次への進級バリアーが新たに設けられた。新カリキュラム2年次及び3年次に於いては、基本的には従来の枠組みを維持しながら、コア・カリキュラムの積極的な活用による授業時間の短縮を行ない、一方でより進んだ内容を少人数グループ形式の選択必須科目として提供する「医学ゼミ」を平成15年度から導入した。4年次以上の学年に関しては、従来

の60分授業と90分授業の混在型から1コマ90分に統一されたことに伴う若干の枠組みの変更と、平成11年度のカリキュラム改訂に伴う学年進行に基づく改訂が行なわれた。4年次のリサーチセミナーは、昨年と同様各基礎教室に4名以内の学生が配属された。更に、新カリキュラムでは3年次にリサーチセミナーが移行したため、本年度では4年次学生と共に3年次学生も各4名以内で配属された。また総計6名の学生が海外実習に参加した（表3）。臨床実習協定締結施設は32施設、臨床教授・臨床助教授・臨床講師も24名に増加した（表4）。平成16年度の卒業生は106名でその国家試験合格率は92.5%であった（既卒者を加えると86.2%）。

C. 共用試験

平成17年度の本格的導入に向けて、昨年に引き続き「臨床実習開始前の共用試験」の問題作成と最終トライアルが行われた。共用試験とは、知識・技能・態度をコンピューター試験（CBT）と客観的臨床能力試験（OSCE）の二本立てで評価するものである。CBT実施に向けて本学にも100題以上の問題作成が依頼され、21名のCBT問題作成委員会を組織して問題作成及びそのブラッシュアップを行った。また、最終CBTトライアルは、共用試験実施機構からの派遣監督者の出席のもと、平成16年12月10日、12月13日、12月14日の3回に分けて実施し、再試験は平成17年2月21日、2月22日の2回に分けて行われた。OSCEは、4年次前期科目「診断学」の試験として実施され、外部評価者として佐賀大学より6名の評価委員が参加した。

D. 医学教育高度化への試みと第4回医学部医学科FDの実施について

課題探索・自己問題解決型学習能力の賦与、全人的医療人教育の場としての離島活用及び臨床実習の高度化を目指し、平成16年度から5年次各科ローテーションを従来の13組各3週から14組各2週に短縮し、5年次にProblem Based Learning（PBL）チュートリアルを導入すると共に、一週間に渡る離島医療実習を新たに開講した。更に6年次に高次臨床を導入することとなった。特にこの離島医療実習への取り組みは、平成16年度特色ある大学教育支援プログラムに採択された。また、医師国家試験の実施時期の繰り上げと受験回数制限、及び本学に於ける合格率の低迷を受けて、最終試験（卒業試験）のあり方に関して総合試験制の導入も含め議論が巻き起こっている。このような動きを意識して、今回のFDは特に臨床教員の出席を促すため平日の午後に開催することとし、平成16年7月1日（木）に、岩手医科大学堀内三郎教授（共用試験実施機構医学系共用試験FD小部会CBT部会長）をお招きし、「共用試験、特にCBTの進捗状況と新形式作用のねらい」という表題で御講演頂いた。その後ワークショップと全体討論を行った。今回のFDでは、55名以上の御出席を頂き熱心な御議論を頂いた。これらの討議内容が、本学医学教育の更なる改革に向けた有効な一手につながる事を祈念する。

（文責：医学部医学科 教務委員長 小路武彦）

表1 平成16年度 医学部医学科教員の全学教育への参画

A. 全学教育授業科目担当の医学部医学科教員

分野	授業科目名	担 当 教 員
共通基礎科目	教養セミナー	田口 尚、谷山紘太郎、矢野捷介、中園一郎、佐藤 浩、片峰 茂、北岡 隆、永山雄二、貝原宗重、岡市協生、高村 昇、森内良三、田中克己、桶上賀一、上園保仁、秋野公造、赤嶺晋治、戸田源二、大谷 博、松本逸郎
	教養特別講義	相川忠臣、関根一郎、朝長万左男
情報処理科目	情報処理入門	三根真理子、本田純久
健康・スポーツ科学科目	健康スポーツ科学	青柳 潔
	健康科学	石丸忠之、青柳 潔、難波裕幸、諸岡浩明、伊東 勉、山近史郎、今村 明、中根秀之、大曲勝久、早田 宏
人間科学科目	人間の科学	下川 功、中園一郎、篠原一之、木下英一、古賀成彦、増崎英明、池松和哉、藤村幸一、西原永潤、守屋孝洋
	生体の機能	金武 洋、近藤宇史、澄川耕二、丹羽正美、高橋晴雄、北岡 隆、永田 泉、貝原宗重、瀬戸信二、堤 圭介、古賀成彦、調 漸、井原義人、陣内逸郎、上園保仁、山下康子、北川直毅、大野秀明、牛島隆二郎
	生命の科学	由井克之、中込 治、岡市協生、松本逸郎、本間季里
	人間と環境	奥村 寛、松本智子、今村 明、中根秀之
	生体の構造	小路武彦、松山俊文、関根一郎、吉浦孝一郎、菱川善隆、中山敏幸、中島正洋、江島邦彰
自然科学科目	生物の科学	伊藤 敬、山下 俊一、高村 昇、江島 邦彰、藤村 幸一
	物理科学	奥村 寛、近藤久義

B. 全学教育関連委員会の医学部医学科委員

委 員 会		委 員
全学教育実施委員会		小 路 武 彦 (教務委員長)
全学教育実施委員会 (科目別専門委員会)	教養セミナー専門委員会委員	由 井 克 之 (人間科学専門委員会委員長)
	教養セミナー専門委員会委員	永 山 雄 二
	教養特別講義専門委員会委員	本 多 正 幸
	情報処理科目専門委員会委員	柴 田 義 貞
	健康・スポーツ科学専門委員会委員	進 藤 裕 幸
	外国語科目専門委員会委員	森 内 浩 幸
	人文・社会科学専門委員会委員	長 島 聖 司
	人間科学専門委員会委員	由 井 克 之
		篠 原 一 之
		高 橋 晴 雄
	自然科学専門委員会委員	佐々木 均
		山 下 俊 一
		佐 藤 浩
	総合科学専門委員会委員	下 川 功
留学生用科目専門委員会委員	江 石 清 行	

表2 平成16年度 1～6年次授業科目（系）責任者

学年	授 業 科 目	責 任 者	学年	授 業 科 目	責 任 者
1 年 次	医と社会(医学入門)	高橋晴雄	4 年 次	小 児 系	森内浩幸
	人間生物学	小路武彦		中毒・物理的要因系	青柳 潔
	細胞生物学	山下俊一		感覚系(眼科学)	北岡 隆
	医学統計学	柴田義貞		感覚系(耳鼻咽喉科学)	高橋晴雄
	生物化学	伊藤 敬		皮膚・結合組織系	片山一朗
	生物・化学実習	伊藤 敬		精神系	小澤寛樹
	原爆医学概論	朝長万左男		診 断 学	大園恵幸
	医学は長崎から	相川忠臣		外科治療学	兼松隆之
	人体構造系Ⅰ	長島聖司		熱帯医学	由井克之
	2 年 次	医と社会		相川忠臣・中園一郎	リサーチセミナー
人体構造系Ⅱ		長島聖司	社会医学	青柳 潔	
神経・感覚器系		黒川 衛	内科総括講義	江口勝美	
発生・組織系		小路武彦	臨床検査医学総括講義	上平 憲	
動物性機能系		篠原一之	5 年 次	医と社会	高橋晴雄
内臓機能・体液系		相川忠臣		社会医学	青柳 潔
生体分子系		伊藤 敬		法 医 学	中園一郎
分子遺伝系		新川詔夫		内科総括講義	江口勝美
医学ゼミ	小路武彦	精神神経科総括講義		小澤寛樹	
3 年 次	医と社会	高橋晴雄		小児科総括講義	森内浩幸
	医学ゼミ	小路武彦		外科総括講義	兼松隆之
	感 染 系	片峰 茂		整形外科総括講義	進藤裕幸
	免 疫 系	由井克之	皮膚科総括講義	片山一朗	
	病理総論系	下川 功	泌尿器科総括講義	金武 洋	
	腫 瘍 系	松山俊文	眼科総括講義	北岡 隆	
	分子病態系	近藤宇史	耳鼻咽喉科総括講義	高橋晴雄	
	環境因子系	奥村 寛	放射線医学総括講義	林 邦 昭	
	薬 理 系	谷山紘太郎	産婦人科総括講義	石丸忠之	
	病理各論系	田口 尚	麻酔科総括講義	澄川耕二	
	リサーチセミナー	篠原一之	脳神経外科総括講義	永田 泉	
	内分泌・代謝・栄養系	江口勝美	形成外科総括講義	平野明喜	
	循環器系	矢野捷介	心臓血管外科総括講義	江石清行	
	呼吸器系	河野 茂	臨床検査医学総括講義	上平 憲	
血液・リンパ系	朝長万左男	総合病理学	関根一郎		
応用薬理学(選択科目)	丹羽正美	臨 床 特 論	朝長万左男		
4 年 次	消化器系	関根一郎	臨床特論(臨床薬理)	佐々木 均	
	脳・神経系	中村龍文	臨床特論(東洋医学/応用薬理)	丹羽正美	
	腎泌尿器系	金武 洋	6 年 次	内科総括講義	江口勝美
	生殖系	石丸忠之		医と社会	高橋晴雄
	運動系	進藤裕幸		最終臨床総括講義	矢野捷介

表3 平成16年度 後期「リサーチセミナー」

教室名	指導教員	研究テーマ	受講学生数		
			4年次	3年次	合計
解剖学第一	森 望	神経遺伝子の転写制御：神経選択的サイレンサーを含む核内転写複合体の解析	1		1
	森 望	神経細胞の形態制御：チューブリン骨格制御におけるSCG10系分子の役割	1		1
	森 望	老化と遺伝子発現：老化脳におけるnGAPsおよびShc関連遺伝子の発現変動		1	1
	秋野 公造	神経細胞の形態制御：アクチン骨格制御におけるN-Shc系分子の役割	1		1
解剖学第二	長島 聖司 分部 哲秋	人体の局所解剖	2	2	4
	岡本 圭史 佐伯 和信	人体の局所解剖	2	2	4
解剖学第三	小路 武彦 菱川 善隆 江島 邦彰	遺伝子発現定量解析への全自動化への試み	1		1
		マウス生殖細胞におけるアポトーシス誘導へのミトコンドリアの関与	2		2
		BPA投与マウス精巣での生殖細胞死誘導機構の解明	1		1
	小路 武彦 菱川 善隆 江島 邦彰	正常胎盤におけるGATAファミリーの発現動態		2	2
		LPS投与したマウス炎症胎盤モデルにおける抗酸化剤の効果		2	2
生理学第一	松本 逸郎	ストレス誘発の摂食障害の発現のメカニズム解析とその改善	4	4	8
生理学第一	篠原 一之	各月経ステージ毎の女性の匂いに対する男性情動反応	1		1
	篠原 一之	乳幼児の母子間コミュニケーション		2	2
	守屋 孝洋	睡眠が及ぼす脳の神経新生への影響について	1	1	2
	寺 蘭 英之	神経幹細胞を用いた神経再生の試み	1	1	2
	藤村 幸一	記憶学習と概日リズム	1	1	2
生化学	伊藤 敬	肝再生におけるクロマチン構造変換に関与する蛋白質複合体の解析	1	1	2
	中川 武弥 伊藤 敬	癌進展に関与するヒストン修飾とクロマチン構造変換	2		2
薬理学第一	丹羽 正美	血液脳関門(BBB)と薬物の中枢送達	2	1	3
	山下 康子	虚血性神経細胞死におけるグリア細胞の機能解析	1	2	3
	田中 邦彦	薬物トランスポーターの機能解析	1	2	3
	古川 ひさ子	プリオン病の早期診断法	1	1	2
薬理学第二	谷山 紘太郎 上園 保仁	消化管運動改善薬の探索	3	1	4
	上園 保仁	受容体およびイオンチャネルクローニングとその発現	2	1	3
	林 日出喜	細胞死(アポトーシス)関連遺伝子のクローニング	1	1	2

教室名	指導教員	研究テーマ	受講学生数		
			4年次	3年次	合計
病理学第一	下川 功博 大谷 博	脳疾患モデルにおけるKetogenic dietの効果：カロリー制限との相異	1	3	4
	樋上 賀一	白色脂肪組織修飾による老化制御の基礎的研究		1	1
病理学第二	田口 尚	腎疾患の病理学的研究	3	4	7
公衆衛生学	安部 恵代 青柳 潔	地域住民における骨粗鬆症の疫学	4		4
	高村 昇	生活習慣病, 及びがんの分子疫学	2		2
免疫機能制御学 (医動物)	由井 克之	T細胞免疫寛容の誘導と維持	1	2	3
	由井 克之	マラリアワクチン開発の基礎研究	1	1	2
	本間 季里	樹状細胞, マクロファージの機能における転写因子IRF-4の役割	1		1
法医学	中園 一郎 津田 亮一 池松 和哉	死後変化に伴う蛋白質の動態解析	2		2
	中園 一郎 津田 亮一 池松 和哉	マウス皮膚損傷モデルの作製と損傷部蛋白質動態の経時的解析		2	2
原研病理	関根 一郎 山 睦美	生命活性水の皮膚外傷への効果	2		2
	関根 一郎 山 睦美	急性放射線障害における自律神経系の調節機構		1	1
	中山 敏幸	GISTにおける増殖因子発現の検討	1		1
	中島 正洋	放射線汚染地域甲状腺微小乳頭癌の組織形態像とリンパ節転移およびcyclin D1発現についての解析		1	1
	七條 和子	難治性腸炎に関する組織学的検討	1		1
	温 春陽	被爆者多臓器性癌における重複原発癌と転移性癌の鑑別	1		1
	Alipov gabit	Comparative study of BRCA1 mutations in breast cancer between Japan and Kazakhstan		1	1
原研放射	岡市 協生	p53の修飾とシグナル伝達	1		1
	井原 誠	DNA二本鎖切断修復系の解析		2	2
原研放射 (アイソトープ実験施設)	松田 尚樹 奥村 寛	太陽紫外線に対する細胞の応答機構	1		1
原研生化	井原 義人 近藤 宇史	小胞体分子シャペロンと細胞内シグナル	1	2	3
	後藤 信治 近藤 宇史	がん薬剤耐性獲得における細胞内小器官の役割	1		1
	浦田 芳重 近藤 宇史	酸化ストレスと血管老化の分子生物学	2	1	3
原研疫学・原研情報	柴田 義貞 近藤 久義 本田 純久	検診データの縦断的解析	1	1	2

教室名	指導教員	研究テーマ	受講学生数		
			4年次	3年次	合計
原研疫学・原研情報	柴田 義貞 三根 真理子	テキスト型データに基づく原爆およびチェルノブイリ事故の影響分析	1	1	2
原研遺伝	新川 詔夫	染色体異常からの疾患遺伝子の単離 Isolation of disease causing gene from chromosomal aberration	1	1	2
	吉浦 孝一郎	口蓋裂遺伝子の同定 Identification of genes for cleft palate	1		1
	木下 晃	耳アカ型遺伝子の単離 Isolation of the putative gene for the earwax type	1		1
原研細胞	難波 裕幸	甲状腺がんの遺伝子診断と分子標的治療の開発	1	1	2
	山下 俊一 (タチアナログノヴィチ)	ベラルーシ共和国における甲状腺疾患の分子疫学調査		2	2
原研分子	永山 雄二	C57BL/6マウスバセドウ病発症と自然免疫の関連	1		1
	齋藤 巨樹	マウスバセドウ病モデルと獲得免疫	1		1
	永山 雄二	バセドウ病マウスモデルを用いた病態解析		1	1
	永山 雄二	調節性サイトカインによるバセドウ病発症抑制効果の検討		1	1
感染防御因子解析学	河野 友子	成人T細胞性白血病の起源としての調節性T細胞, Treg	1	1	2
	河野 友子	IRF-2遺伝子欠損マウスはなぜ急性膵炎をおこすのか	1		1
	安井 潔	HTLV-1 taxとDNA高次構造	1		1
	廣仲 紀子	IRF-4の活性調節	1		1
感染分子解析学	片峰 茂	ATLウイルスとクラミジアの血清疫学	1		1
	坂口 末廣	プリオン蛋白の分子生物学	1	1	2
	西田 教行	(1)プリオン感染様式の解明 (2)プリオン病治療薬の開発	1	1	2
	森内 良三	がん遺伝子Tgatの機能解明	1		1
病態分子疫学	中込 治 アハメド カムルディン	molecular epidemiology of rotavirus	1	3	4
比較動物医学分野	佐藤 浩貴 大沢 一貴	ヒヘルペスウイルスの遺伝子解析		1	1
熱帯医学研究所					
分子構造解析分野	森田 公一	遺伝子工学手法によるキメラウイルス(人工ウイルス)の作出	2	2	4
病原因子機能解析	和田 昭裕 平山 壽哉	ヘリコバクター・ピロリの空胞化毒素(VacA)の作用機序解析		1	1
感染細胞修飾機構	中澤 秀介	ネズミマラリア原虫 Plasmodium berghei NK65を用いた再燃の定量化	1		1
	上村 春樹	マラリアとトリパノソーマの病原性遺伝子解析	1	1	2
	神原 廣二 柳 哲雄	マラリアコントロール	1	2	3

教室名	指導教員	研究テーマ	受講学生数		
			4年次	3年次	合計
寄生行動制御分野	青木 克己 藤巻 康教	蠕虫幼虫の走化性	1	1	2
	青木 克己	住血吸虫卵の孵化の機序		1	1
炎症細胞機構	中村 三千男	ミスマッチDNA結合蛋白質の解析	2		2
病変発現機序	鳥山 寛	肝疾患の臨床病理学的研究	2	1	3
生物環境	高木 正洋	マラリア媒介蚊の季節的発生消長について ーインドネシア、ロンボク島の例ー	1	1	2
	川田 均	蚊複眼のeye parameterと日周活動との関係	1	1	2
疾病生態 (分子免疫)	平山 謙二 菊池 三穂子	ミクロネシアバヌアツ諸島のマラリア淘汰圧による遺伝的な 変動ーマイクロサテライトマーカーによる解析	1	1	2
	平山 謙二 菊池 三穂子	住血吸虫経口ワクチン投与により刺激されるT細胞サブセット の解析ーサイトカインmRNAの発現解析	1		1
熱帯感染症研究センター	門司 和彦 國井 修 嶋田 雅暁	熱帯医学・国際保健に関する文献分析	4	2	6
医学部・歯学部 附属病院病理部	林 徳真 安倍 邦子	1) 診療における病理診断の位置づけと役割の認識。 2) 臨床ー病理症例カンファレンスで症例呈示。 3) 日本語または英語で症例報告執筆。	1	1	2

海外派遣実習生

大学名	実習学生数		
	4年次	3年次	合計
1 ライデン大学医学部	2		2
2 ビュルツブルグ大学医学部	2		2
3 バラルーシ医科大学	2	(※)2	4

※指導教員：山下俊一教授

表4 A. 平成16年度長崎大学医学部臨床実習協定締結施設

	施設名	協定年月日
1	長崎市立市民病院	平成8年5月31日
2	日本赤十字社 長崎原爆病院	平成8年5月31日
3	長崎市立病院成人病センター	平成8年6月1日
4	長崎県立精神医療センター	平成8年6月1日
5	社会福祉法人 長崎市障害福祉センター	平成8年6月1日
6	財団法人 長崎県総合保健センター	平成8年6月1日
7	医療法人春回会 長崎北病院	平成10年5月20日
8	江上耳鼻咽喉科医院	平成11年5月31日
9	医療法人祥二会 西諫早病院	平成12年6月19日
10	医療法人白十字会 佐世保中央病院	平成12年7月21日
11	長崎市中央保健センター	平成12年11月24日
12	医療法人友愛会介護老人保健施設にしきの里	平成12年11月24日
13	医療法人清潮会介護老人保健施設みどりの里	平成12年11月24日
14	日本海員掖済会 長崎病院	平成13年5月11日
15	阿南皮膚科医院	平成13年5月11日
16	医療法人北辰会 久保皮膚科医院	平成13年5月11日
17	独立行政法人 国立病院機構長崎病院	平成13年5月11日
18	ゆきなり・クリニック	平成13年7月10日
19	虹が丘病院	平成13年8月7日
20	医療法人昌生会出口病院	平成14年7月18日
21	独立行政法人 国立病院機構長崎医療センター	平成15年6月12日
22	佐世保市立総合病院	平成16年8月1日
23	長崎県五島保健所	平成16年8月1日
24	五島市国民健康保険三井楽町診療所	平成16年8月1日
25	五島市国民健康保険玉之浦町診療所	平成16年8月1日
26	岐宿町岐宿診療所	平成16年8月1日
27	岐宿町山内診療所	平成16年8月1日
28	長崎県離島医療圏組合 五島中央病院	平成16年8月1日
29	長崎県離島医療圏組合 富江病院	平成16年8月1日
30	長崎県離島医療圏組合 奈留病院	平成16年8月1日
31	五島市健康政策課	平成16年9月1日
32	五島市社会福祉協議会福江支所	平成16年9月1日

B. 平成16年度長崎大学医学部臨床教授、臨床助教授、臨床講師一覧

称号	氏名	施設名
臨床教授	楠本征夫	長崎市立市民病院
臨床教授	宮田昭海	長崎市立市民病院
臨床教授	鈴木伸	長崎市立市民病院
臨床教授	中尾丞	日本赤十字社長崎原爆病院
臨床教授	中島成人	日本赤十字社長崎原爆病院
臨床教授	古河隆二	日本赤十字社長崎原爆病院
臨床教授	田浦幸一	長崎市立病院成人病センター
臨床教授	須山尚史	長崎市立病院成人病センター
臨床教授	田所正人	長崎市立病院成人病センター
臨床教授	山崎和文	長崎市立病院成人病センター
臨床講師	矢加部和明	長崎市立病院成人病センター
臨床教授	辻畑光宏	医療法人春回会長崎北病院
臨床教授	佐藤聡	医療法人春回会長崎北病院
臨床講師	江上徹也	医療法人江上耳鼻咽喉科医院
臨床教授	千葉憲哉	医療法人祥仁会西諫早病院
臨床教授	植木幸孝	白十字会佐世保中央病院
臨床助教授	松本一成	白十字会佐世保中央病院
臨床教授	平松公三郎	独立行政法人国立病院機構長崎病院
臨床教授	馬場輝實子	独立行政法人国立病院機構長崎病院
臨床教授	本山和徳	独立行政法人国立病院機構長崎病院
臨床教授	高橋克朗	長崎県立精神医療センター
臨床教授	藤岡ひかる	独立行政法人国立病院機構長崎医療センター
臨床講師	濱田久之	独立行政法人国立病院機構長崎医療センター
臨床教授	上之郷眞木雄	佐世保市立総合病院